



特集

地域学校協働活動 ～学校を核とした地域づくり～

● 問合せ 生涯学習課生涯学習係 (☎②1262)

近年、急激な社会の変化に伴い、学校と地域を取り巻く課題はますます複雑化、多様化しています。

学校では、多種多様な対応が必要な状況となってきましたが、一方で、地域においても、家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化などにより、地域社会における支え合いやつながりが希薄化することによって、地域社会の停滞や教育力の低下などが指摘されています。

そうした状況の中、『よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る』という新学習指導要領の目標を学校と地域とが共有しなければなりません。未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む『社会に開かれた教育課程』の実現に向けて、相互の連携・協働のもとに学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子どもたちの成長を支えていくことが必要です。

今回の特集では、学校と地域が相互にパートナーとして行う『地域学校協働活動』について紹介します。



東陵中学校生徒と地域学校協働活動推進員などが協力して行った地域の清掃活動 (令和3年11月2日撮影)



地域学校協働活動とは

地域学校協働活動とは、地域住民や学生、保護者、NPO、民間企業、団体・機関など、幅広い地域住民などの参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、『学校を核とした地域づくり』を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行うさまざまな活動です。

子どもの成長を軸として、連携・協働し、意見を出し合い学び合う中で、地域の将来を担う人材の育成を図ります。また、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る『学校を核とした地域づくり』を推進し、地域の創生につながっていくことが期待されます。

地域学校協働活動は、学校と協働して行う次の活動とされています

- 学校の授業終了後または休業日において学校、社会教育施設などで行う学習、その他の活動
- ボランティア活動、社会奉仕体験活動、自然体験活動、その他の体験活動
- 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して学校、社会教育施設などで行う教育活動、その他の活動

キーワード



地域住民 + 子ども + 地域理解 + 地域づくり + 愛着



では、何から始めればいいのでしょうか？

まずは、今、地域で進めている連携事業やイベントを洗い出してみることから始めてみてはどうでしょうか。今やっていること、今ある組織、団体、似たものの探しから始めてみましょう。

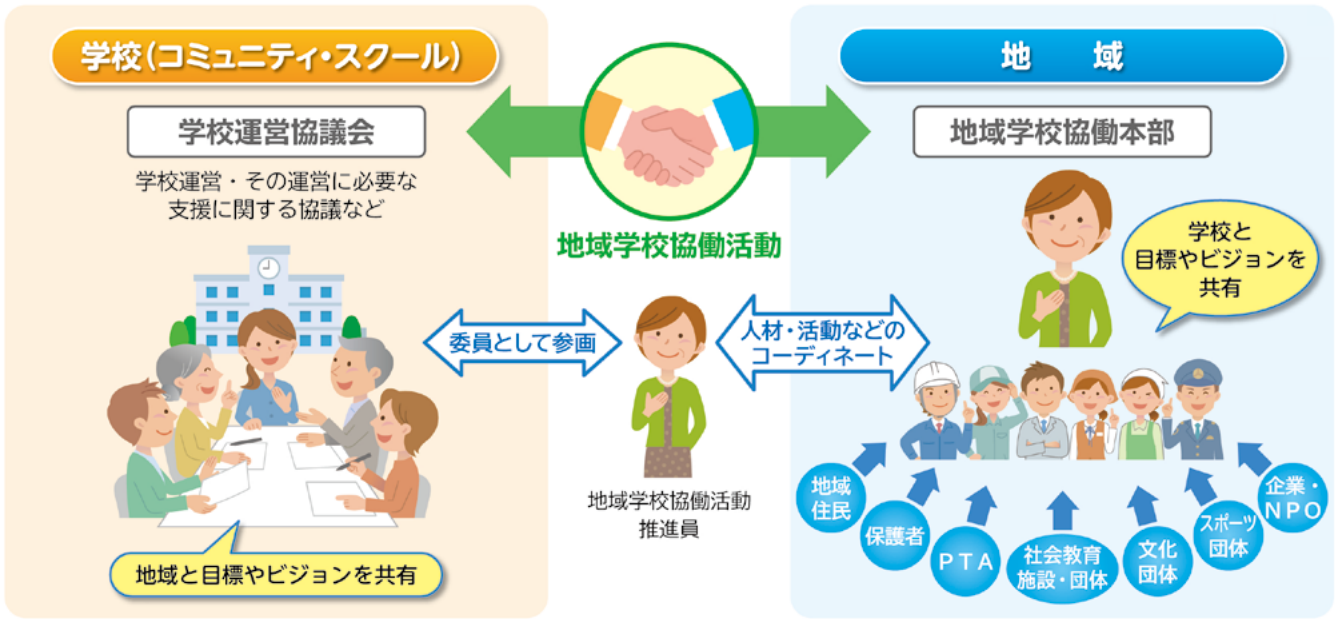
ポイント

- 多様な主体との協働 = さまざまな大人たちが関わっていること
- 子どもがお客さんになるだけでなく、自分から関わっていること
- 地域性を出すこと = 地域の芸能や歴史、祭り、産業、食べ物など
- 学習だけでなく、行動に移すこと（調査、発表、参加、行動など）
- 良質な地域の大人と出会い、地域への愛着を深めること

基本的な考え方

- **ずっと変わらずにやっていることを大切にすること。それを来年もできるようにすること**
 - ▷ いつも何かと心にかけてくれる地元の人々
 - ▷ 学校やコミュニティセンターなどで地域と学校と一緒にやっている事業
- **今ある団体や会議、打ち合わせを抱き合わせる**
 - 新しいことを立ち上げるのではなく、実際に汗を流している人を中心に構成していく。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一つの取組として



【出典】文部科学省『これからの学校と地域』



地域学校協働活動推進員とは

地域学校協働活動を推進するためには、学校と地域とをつなぐコーディネーターの役割は必要不可欠です。

『地域学校協働活動推進員』は、地域住民などと学校との連絡調整などを行うコーディネーターです。社会教育法では、『教育委員会の施策に協力して、地域と学校との情報共有や活動を行う地域住民等への助言などを行う』地域住民と定められています。

地域学校協働活動推進員として法律に位置付けられた明確な立ち位置で地域学校協働活動を推進することにより、継続的で円滑な活動を行うことができます。

地域学校協働活動推進員は、市内の小学校区ごとに1人ずつ、教育委員会が委嘱しています。

地域の教育課題解決に必要な総合的な連絡調整に関する活動のほか、地域・学校の教育活動への支援や企画、参加促進に関する活動などを実践していただいています。

～地域学校協働活動推進員など地域住民の具体的な仕掛けの例～

- 子どもと大人と一緒に参加できる。話したり、楽しんだりできる。
大人とは、保護者だけでなく、中学生・高校生や大学生、高齢者などです。
 - 学校の行事に地域らしさで味を付ける。地域の協力を得て実施する。
地域らしさ（個性）とは、その地域にある産業や食、人材、歴史、施設、資源、自然などを指します。
 - すでにある事業に、多様な主体が関わる。すでにある事業をあわせて1つにする。
清掃活動や地域貢献の活動のときに、自治会と一緒に実施するなどです。
- ※活動の当日に手伝ってもらうだけが『参加』ではありません。
事前に相談したり、企画のアイデアをもらったり、人を紹介してもらったりすることも、大切な『関わる』ということになります。





地域学校協働活動推進員の活動

学校とのつながりは、ボランティアで朝の読み聞かせに行くことから始まりました。令和3年度は、リズムダンスや将棋、手芸など、地域の人が持っている特技を子どもたちの活動に生かせないかを学校と話し合い、『南波多町子ども教室（4～6年生）』として縦割り活動に取り組み、地域の人に指導者になってもらいました。ほかに、さまざまな活動にたくさんの地域の人が積極的に協力していただいていますので、これからも学校と地域をつなぐために頑張っていきたいと思います。

南波多町地域学校協働活動推進員 井手 みどり さん



令和3年度は、3つの駅（駒鳴駅、大川野駅、肥前長野駅）と亀公園の清掃活動を行いました。この活動には、東陵中学校、民生委員・児童委員、各区長、老人クラブからたくさんの人に参加していただき、中学生と地域住民との交流ができました。今年度は、学校と地域をつなぐ活動として、農業体験、駅などへの花の植栽、地域の美化活動などを計画したいと考えています。学校と地域をつなぐ架け橋になるのは、色々難しいことがありますが、頑張っていきたいと思います。

大川町地域学校協働活動推進員 小松 伸幸 さん

令和3年度は、東陵中学校の生徒と地域住民が参画し、桃川駅・金石原駅や桃川親水公園の清掃活動を行いました。この作業を通じて、子どもたちが地域住民と交流し、体験や経験の場を持つことで、住んでいる地域を愛する、思いやる気持ちが育まれるものと思います。まずは地域を知ることから始めて、無理のない活動を徐々に広げる中で多くの地域住民の参画を促し、学校との連携を図りながら、活動が継続できるよう働きかけをすることが大切だと思います。

松浦町地域学校協働活動推進員 大崎 正之 さん



小学校図書館のリニューアルでは、保護者がブックスタンドを作成

『地域とともにある学校』は、いまや学校経営にとつて不可欠のキーワードです。コミュニティスクールという言葉も耳になじんできました。しかし、現在の地域社会は、子どもの教育に責任を負えるまでに成熟しているでしょうか？学校教育は、教員不足や勤務時間などの問題を抱えながらも、限界に近いところまで改善と工夫が進んでいます。ここで、地域の皆さんが一肌脱いでくださると、教育効果は飛躍的に上がるのです。

実際、私が以前勤めていた小学校で、図書館のリニューアルを保護者や地域住民の方々との協働作業で取り組んだことがありました。地域の教育力には、子どもの人格を形成し、地域の担い手を育成する働きがあります。また、地域と学校の協働活動は、あなた自身の地域貢献と自己実現にもつながります。ぜひ、地元の学校をあなたの活躍の場にしてください。

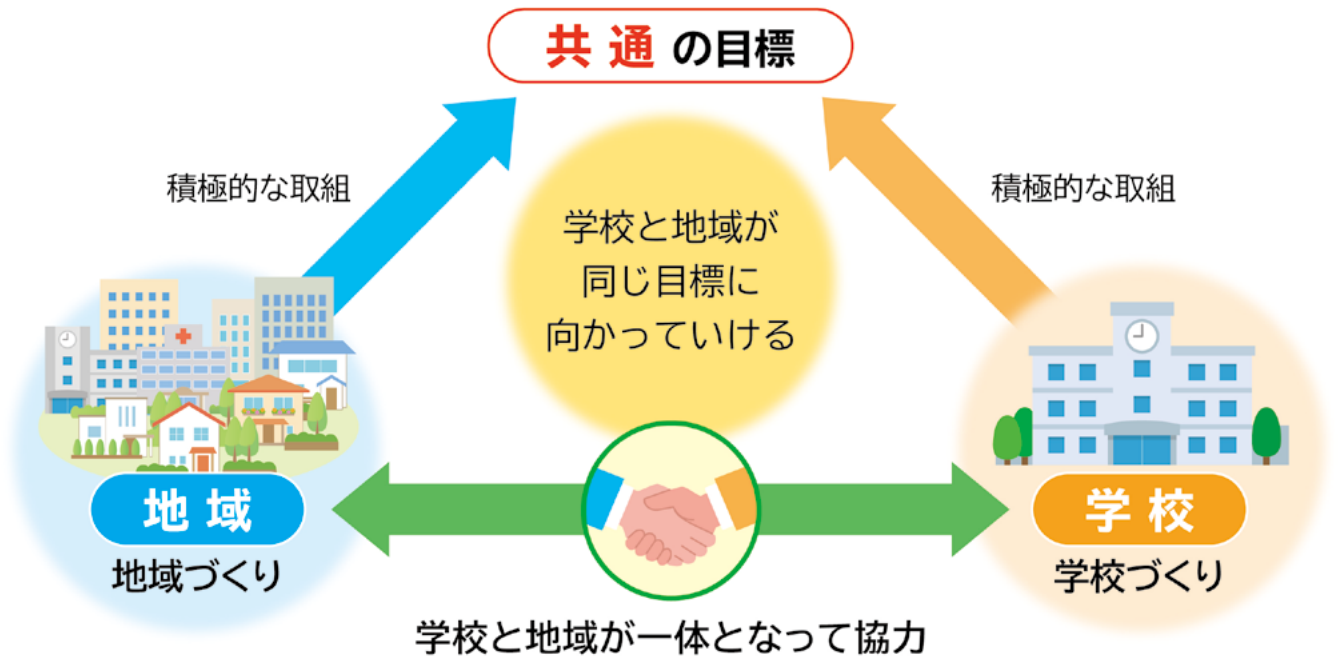
県地域学校協働活動統括コーディネーターから



（伊万里市民図書館長）
鴻上 哲也 さん

佐賀県地域学校協働活動
統括コーディネーター

学校と地域がパートナーとなることで・・・



【出典】文部科学省『これからの学校と地域』

◆保護者・地域住民なども教育の当事者になることで、責任感を持ち、積極的に子どもの教育に携わるようになる

- 近所に元気がない様子の子どもがいても、なかなか声をかけることができない
- 子どものマナーについて学校へ苦情の電話



- 積極的な声かけや自ら指導する機会が増える
- 学校任せではなく、地域が学校とともに対策を考える

◆保護者・地域住民などが学校運営や教育活動へ参画することで、生きがいにつながり、子どもたちの学びや体験が充実

- 自分の経験を生かして学校や子どものサポートをしたいが、迷惑にならないか
- 地域の人と関わる機会が減ってきている
- 地域人材を活用した学習が単発で終わってしまう



- 地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現する
- 学校を中心に地域がつながり、地域の活動が活発になる
- 地域の創意工夫や特性を生かすことで、学校での学びがより豊かで広がりを持つようになる

◆保護者・地域住民などと学校が『顔が見える』関係となり、保護者や地域住民などの理解と協力を得た学校運営が実現

◆学校と地域の協力体制が築かれることで、生徒指導、防犯、防災などの面でも課題解決に向けて効果が期待される

「学校を核とした地域づくり」

「地域の子どもは地域で育てる」当たり前のこともかもしれないませんが、近年、子どもたちと地域とのつながりが薄れてきているように感じます。

地域学校協働活動は、学校行事に地域の人が関わるだけでなく、地域の行事に子どもたち（学校）が参加することも一つの活動です。地域のイベントに子どもたちを取り込むたいとき、地域学校協働活動推進員に相談してみてください。学校と地域との調整役として、子どもたちとのつながりを作っていただけだと思います。

地域と学校とが連携・協働して活動していくことで、子どもと地域をつながりだけでなく、地域の人たち同士つながりも広がるのではないのでしょうか。



生涯学習課生涯学習係

係長 井本由美子